

# 都市型住人モノ生活

平岡諒太（指導教員 八尾廣）

## 1 はじめに

都市型住人モノ生活。（トシガタジュウジンモノセイカツ）それはこの場所で営まれている生活の名称であり、そこで暮らす人々を都市型住人モノ生活者という。僕はその住人一人一人の生活を創造した。

## 2 コンセプト

同じ部屋がいくつも並んでいるアパートやマンションなどの集合住宅。その中で生活は単調で退屈なモノだろうか。いやそんなことはない。そこにクラス住人たちはその部屋の中に自分だけの小宇宙を作り上げ、その小宇宙に同じモノは一つとしてありはしない。すべての住人たちの生活はそれぞれに違い、それぞれに面白さがあり、それぞれに等しく素晴らしいモノだ。そんな人の生活行為や生活の痕跡が街に飛び出し、集積したとき都市型住人モノ生活が始まる。

## 3 システム

都市型住人モノ生活者たちはこの場所で生活するにあたり、部屋と街のどこかに小屋を所有する。部屋は住人の生活活動の拠点として小屋は住人の生活行為の一部として、部屋から街に飛び出していく。小屋には住人の好きなモノが置かれていき、そのモノたちはやがて街に溢れ出していく。小屋は住人が一人でこもり心を落ち着かせる場所であったり、趣

味に没頭する場所になったりと好きな用途で使われていく。部屋と小屋を所有することで住人の生活活動の範囲が拡張し、多種多様な生活が街を覆いその集積が全体を構成していくことで住人たちの大きな棲み家となる。

## 4 小屋

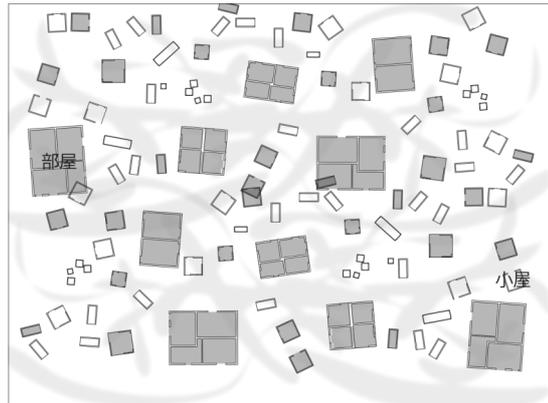
小屋と人とモノの距離感は限りなく近い。小屋にこもる快感は、動物が巣に身を潜めるような安心感がある。一人で過ごす狭い場所への憧れ、一人になりたい気持ち。それが許される状況を小屋は作りだしてくれる。どこもかしこも大きなスケールの建築が立ち並び、それらに囲まれて生活していく中で、小屋という自分の身体の延長のような建築に立ち戻り、自分の生活の象徴となる小屋を自分で作りあげていくことで、住人は住むということの楽しさを実感しながら生活していく。

## 5 おわりに

都市型住人モノ生活は住む人自らが住むことを考え実践していくことで成り立つ。そしてその生活は住む人の顔の見える建築として成長し続けていく。僕は住人の住む力やストーリーが集積することによって生まれたこの建築を卒業設計の作品とした。この作品は僕の大きな夢の第一歩として、これからの建築人生を歩んでいこうと思う。



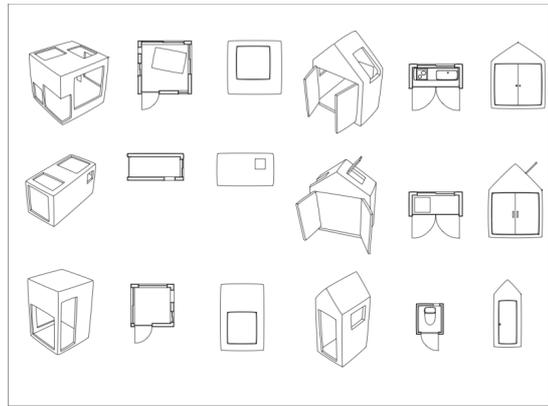
1-a 都市型住人モノ生活がつくりだす全体。住人の生活が街を覆う。



3-a 都市型住人モノ生活者の生活範囲と生活の痕跡。



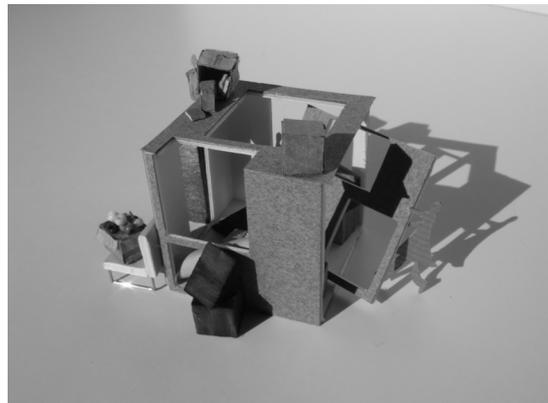
1-b 街の一部。住人の生活は十人十色。それぞれの個性が街をつくっていく。



4-a 小屋は一人でもるタイプのものや、住人が共有で使うものがある。



2-a 部屋につまっていた住人の生活行為や生活の痕跡が街に飛び出す。



5-a 住人は自らの手で住むことを考え、住むことをつくっていく。